

シロとクロとグレ



ぶん／なかえ ゆり え／アンヴィル なほこ

シロとクロとグレ



江苏工业学院图书馆
藏书

ぶん／なかえ ゆり

え／アンヴィル なほこ

ぶん なかえ ゆり
文／中江有里

1973年、大阪生まれ。89年芸能界デビュー。主な出演作はNHK朝の連続テレビ小説「走らんか!」、大河ドラマ「義経」、映画「学校」「ひめゆりの塔」など。02年には、処女脚本作「納豆うどん」で第23回BKラジオドラマ脚本懸賞最高賞受賞。現在NHK-BS「週刊ブックレビュー」で司会を務める。女優、脚本家として多方面で活動中。

え なほこ
絵／アンヴィル奈宝子

1967年、東京生まれ。東京造形大学デザイン科卒業。テレビ・児童書の仕事を中心に活躍。作品に『ゆーらりあ』『なにたべた?』（ともに福音館書店）、『お月さまよんで』（偕成社）、『はるだものできるよきと』（鈴木出版）、『ちよっぺいじいさん』（文研出版）、『ねむねむねんねん』（佼成出版社）などがある。最新刊は『ラスチャのひこうせん』（福音館書店）。

シロとクロとグレ

文／中江有里 絵／アンヴィル奈宝子

平成18年2月1日発行

発行 アシスタントドッグ育成普及委員会

住友生命保険相互会社

〒541-8512 大阪府大阪市中央区城見1-4-35

電話 06-6937-1707 <http://www.sumitomolife.co.jp/>

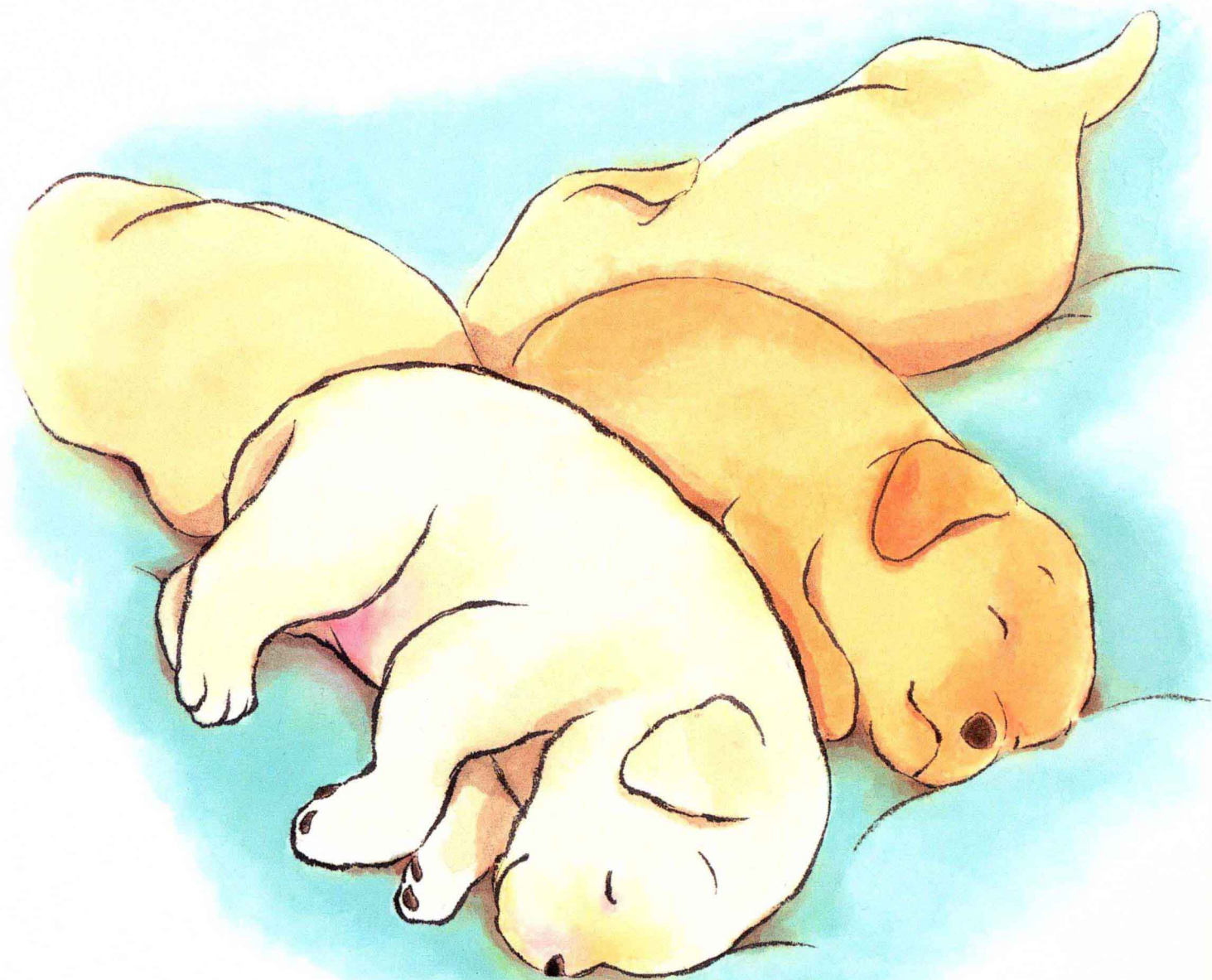
印刷 スミセイ印刷株式会社

推薦 厚生労働省

Text©Yuri Nakae 2006, Illustrations©Nahoko Anvil 2006

NDC913 236×215mm 24P

Printed in Japan



ある日^ひ1匹^{いっぴき}の子犬^{こいぬ}が生まれました。

名^な前^{まえ}はシロ。

大き^{おお}くなったら盲導犬^{もうどうけん}になる犬^{いぬ}です。

盲導犬^{もうどうけん}は目^めの不自由^{ふじゆう}な人^{ひと}を助^{たす}ける犬^{いぬ}です。

でもシロはまだ赤^{あか}ちゃんなので、何^{なに}も知^しりません。

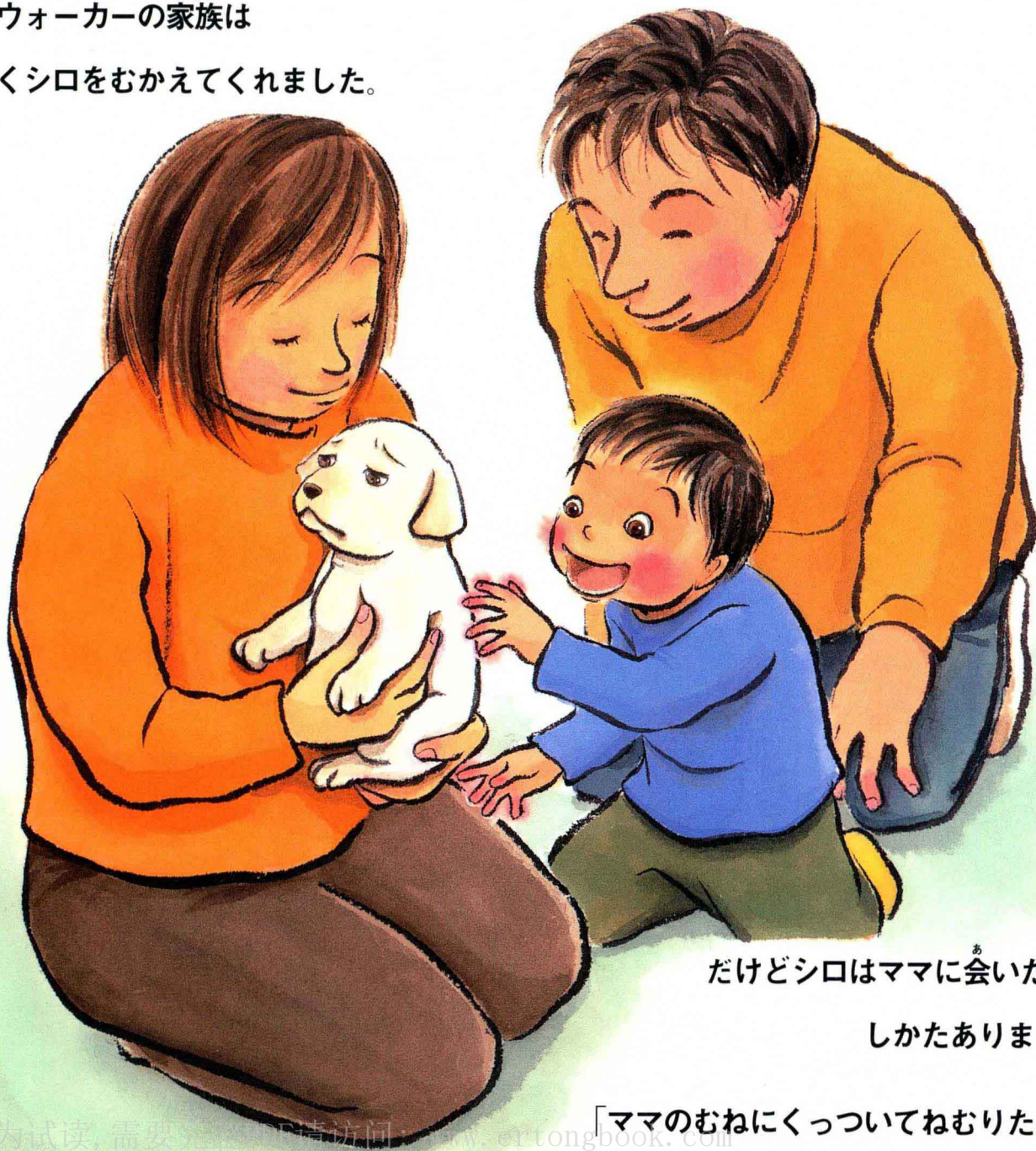
^う生まれてまもなくシロは、パピーウォーカーという、

^{そだ}育ての親となるボランティアの^{いえ}家に行きました。

^{もうどうけん}盲導犬になるためには^{ひと}人となかよしにならなくてはなりません。

パピーウォーカーの^{かぞく}家族は

やさしくシロをむかえてくれました。



だけどシロはママに^あ会いたくて
しかたありません。

「ママのむねにくっついてねむりたいよ」

シロはかべをひっかいたり、ゆかにおしっこをしたり、いたずらばかりします。

いたずらばかりすれば、ママのところに帰らせてもらえるかもと考えて、

シロは一生けんめいいたずらをしました。

だけどシロはしかられることもなく、生まれた家にも帰れません。





ある日の夜、シロは家出をしました。

「やっぱりママのところに帰ろう。

ママといっしょにいたい！」

ひっしに走っているうちに

知らない場所にたどりつきました。

家がどこにあるかもわかりません。

まっ暗やみの中に4つの星がかがやいています。

そっとそばに近づくと、そこには耳の大きなグレーの犬が1匹いました。

「やあ、ぼくはシロ。ここで何をしているんだい？」

「わたしはグレよ。遊んでいるうちにまい子になっちゃったの」

「まだ子どもだから、しかたないね」

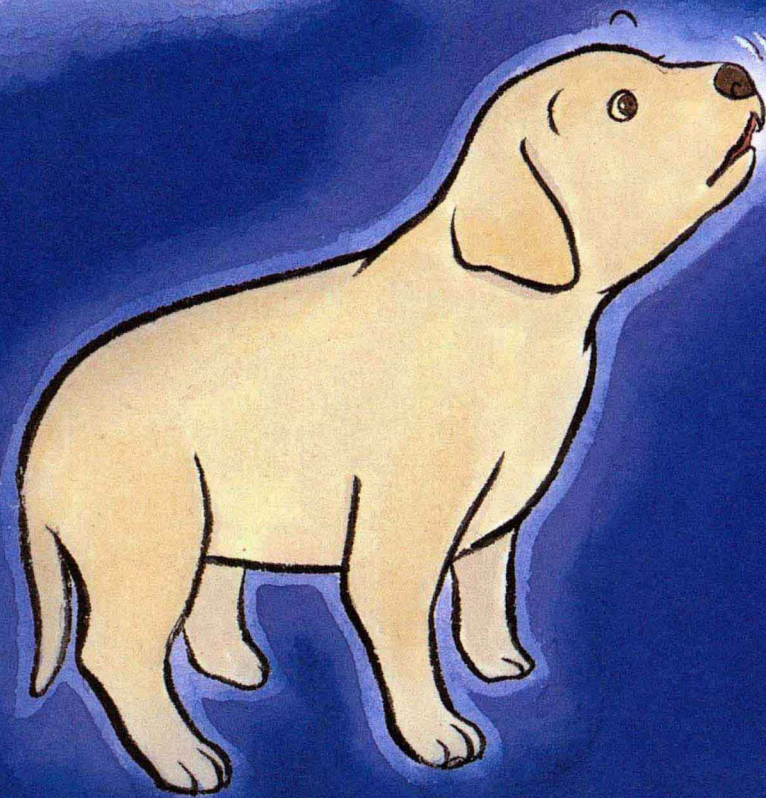
「子どもじゃないわよ！ ちゃんと仕事もあるわ」

「仕事？」

「グレは聴導犬になるのデス」

大きな黒い犬が、暗やみから

急にあらわれて答えました。





「びっくりしたー。はじめまして、ぼくはシロ」

「わたしはクロ。介助犬^{かいじょけん}をめざしてマス」

「介助犬^{かいじょけん}？」

シロは、聴導犬^{ちやうどうけん}や介助犬^{かいじょけん}を知りませんでした。

「介助犬^{かいじょけん}は、体^{からだ}が不自由^{ふじゆう}な人^{ひと}を助ける犬^{いぬ}デス。ドア^あを開けたり、
落^おとしたものを拾^{ひろ}ったり、体^{からだ}が不自由^{ふじゆう}な人^{ひと}のためにはたらくのデス」

「聴導犬^{ちやうどうけん}は、耳^{みみ}の不自由^{ふじゆう}な人^{ひと}を助ける犬^{いぬ}よ。

耳^{みみ}の不自由^{ふじゆう}な人^{ひと}には聞こえない電話^{でんわ}の音^{おと}や、車^{くるま}のクラクション^しを知らせたり、
きけんがないように音^{おと}を聞^きく犬^{いぬ}なのよ」

「ぼくはもっとママといっしょにいたいんだ」

「わたしだってもっと走りまわって遊んでいたいわ」

「そうデス、仕事なんてやめてしましましょう」

「やめて、みんなで遊びましょう」

「そうだ。そうだ」

シロは同じ気持ちのなかまを見つけてうれしくなり、

走りまわりました。

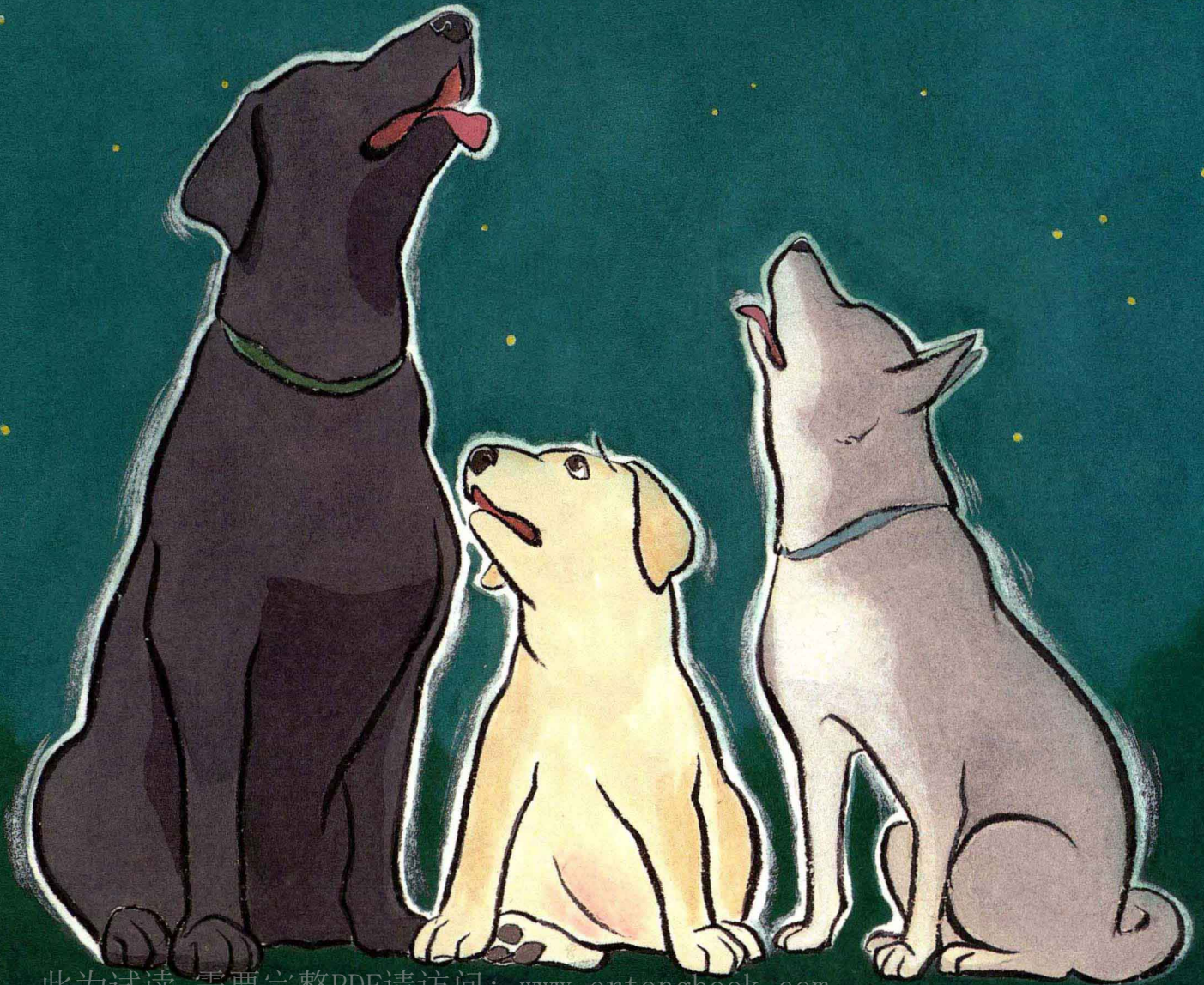


そして遊びつかれた3びきは、星を見ながら休んでいました。

シロは急にパピーウォーカーの家族のことを思い出しました。

「ぼくがいなくなって心配しているかもしれない」

ふあんになってきました。



ふと、となりを^み見ると、クロの^め目になみだがかうかんでいました。

「わたしは^{からだ}体ばかり^{おお}大きくて、まだ^{なに}何もできないのデス。

そんな^{じぶん}自分^ががなさけないのデス……」

クロはポロリとなみだをこぼしました。

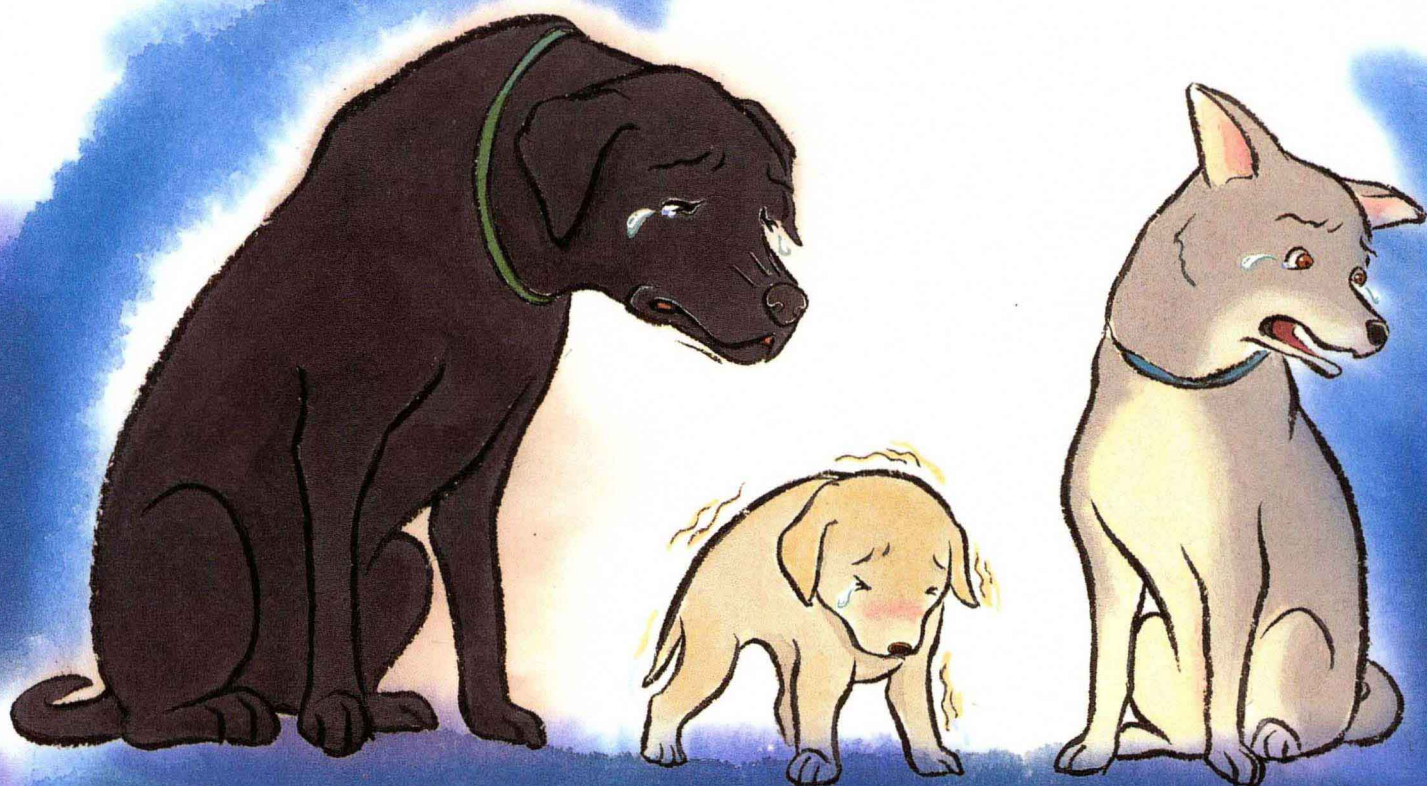
グレも^{きゅう}急になきだしました。

「^{ちょうどうけん}聴導犬^{しごと}の仕事はきらいじゃないの。

でもそんなに^{だいじ}大事な^{しごと}仕事をする^{じしん}じしんがないわ……

シロもなきたくなりました。

「^{いえて}ぼくはいたずらばかりして、家出をして、
みんなを^{ほんとう}こまらせたんだ。本当に^{いぬ}はばかな犬だ」





こえ ほしぞら
3びきのなき声は、星空にひびきわたりました。

「ん？ だれかがよんでいるわ」

ふと、となりを^み見ると、クロの^め目になみだがかうかんでいました。

「わたしは^{からだ}体ばかり^{おお}大きくて、まだ^{なに}何もできないのデス。

そんな^{じぶん}自分^ががなさけないのデス……」

クロはポロリとなみだをこぼしました。

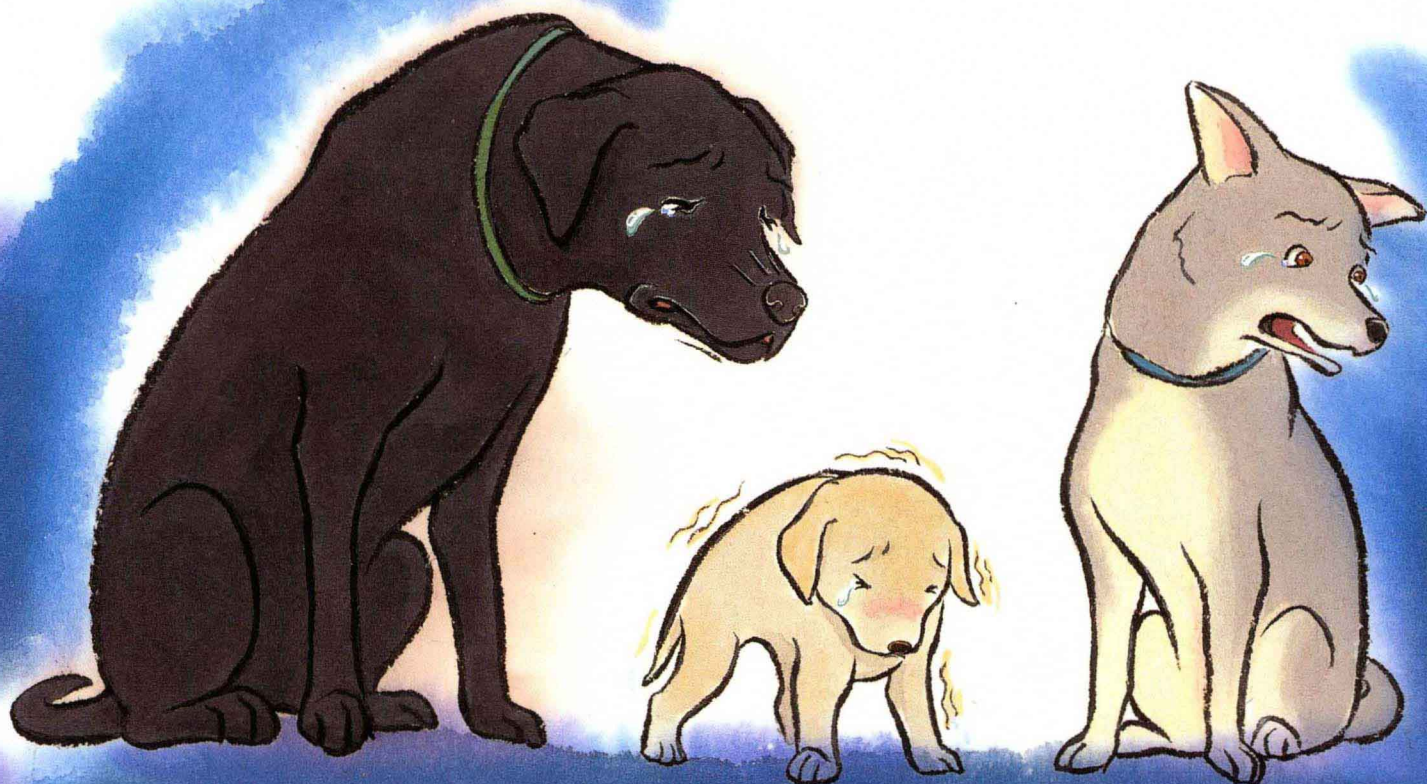
グレも^{きゅう}急に^ななきだしました。

「^{ちょうどうけん}聴導犬^{しごと}の仕事は^{きれい}きれいじゃないの。

でもそんなに^{だいじ}大事な^{しごと}仕事をする^{じしん}じしんがないわ……」

シロもなきたくなりました。

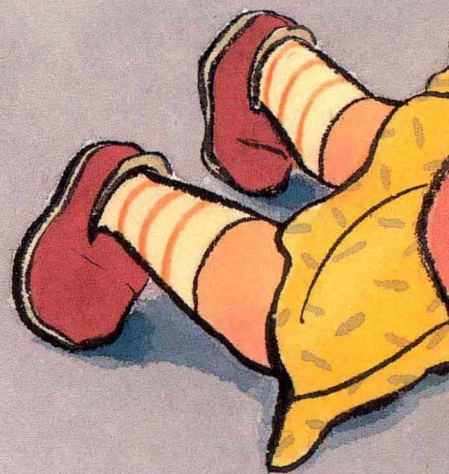
「^{いえて}ぼくはいたずらばかりして、家出をして、
みんなを^{ほんとう}こまらせたんだ。本当に^{いぬ}はかな犬だ」





こえ ほしぞら
びきのなき声は、星空にひびきわたりました。

ん？ だれかがよんでいるわ」



とお 遠くからだれかをよぶ^{こえ}声^きが聞こえました。

「どこ^いに行ったのー？」

おんな こ こえ 女の子の声です。

おんな こ かあ 女の子はお母さんとはぐれてしまい、ないています。

「お母^{かあ}さーん、どこにいるの？ お母^{かあ}さーん」

そのとき、おんな こ ころ 女の子は転んでしまいました。



3びきは急いでかけつけ、

クロがおおきな体で女の子をおこしてあげました。